

千葉森林管理事務所におけるニホンノウサギ捕獲の一考察

千葉森林管理事務所 池田 一穂

ニホンノウサギによる被害

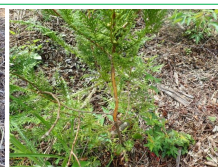
(※以下、「ノウサギ」とする。)

【千葉森林管理事務所管内における被害の現状】

- ・令和5年度に初認以降、一部造林地内の9割以上の苗木が食害を受ける (延べ15,000本以上)
- ・スギ苗木食害だけでなく、ヒノキ苗木や5年生スギの樹皮剥ぎも確認



スギ苗木食害



ヒノキ苗木樹皮剥ぎ

➡ 捕獲・防除が必要だが、生態的な知見が少ないため、まずは生態調査が必要

千葉森林管理事務所管内のノウサギの生態調査

【食性】

- ・23種類の誘引餌を試行したところ、特に葉物を好み、以下の6種類について採食した
コウヨウザン、白菜、大根、ヘイキューブ、豆苗、人参の葉
- ※コウヨウザンは設置後すぐに採食され、コウヨウザン以外は設置から1か月程度の期間を要した
- ※植付したスギ苗木への執着が非常に強い



コウヨウザンを採食するノウサギ

【行動】(センサーカメラ及び目視、文献により判断)

- ・獣害防護柵の隙間から造林地へ侵入(10cm目合では容易、5cm目合では成体の侵入を抑制するが幼体が侵入する可能性有)
- ・移動経路がおおよそ決まっており、**障害物に沿って移動する傾向**が確認された
- ・屋間に造林地内で目撃され、地拵の棚に逃げ込んだ → **造林地内に定着している可能性**
※千葉県ではノウサギの天敵である**キツネが少なく、イヌワシやクマタカが見られない**のも原因か
- ・一度造林地への侵入を許すと、亀甲金網で夜間の侵入防止措置をしても柵内に取り残される(定着を助長する)懸念がある

➡ これらの食性・行動を踏まえ、造林地内へ定着したノウサギの捕獲手法の確立が必要

捕獲の実施

【捕獲手法について】

- ・小型箱罠を基本とし、①～③の設置方法を検討
- ・主要な誘引餌は「コウヨウザン」を使用

※**職員実行**(千葉県では、国又は地方公共団体職員が小型箱罠を使用する捕獲許可申請時に狩猟免許不要)

箱罠規格：幅26.5cm、高さ31.5cm、奥行き81.5cm



①箱罠単体



②箱罠+誘導路



③箱罠+誘導路(片側)
+既存の獣害防護柵



誘引餌(コウヨウザン)

【結果】(捕獲期間：令和6年12月～令和7年2月)

- ・獣害防護柵に隣接して①箱罠単体を設置したところ、**設置から1日で「1羽」捕獲成功**
- ・上記を踏まえ、**③の方法により「3羽」捕獲成功**、R6年度の捕獲期間内で**計4羽捕獲**
⇒「既存の獣害防護柵」が移動制限に大きく貢献したと考えられる

【課題】

- ・誘導路の高さが50cm程度では助走なしに飛び越える
- ・既存の獣害防護柵の利用では造林地中央部分を移動するノウサギの捕獲が難しい
⇒誘導路の改良と造林地中央部分を移動するノウサギの安定的な捕獲手法の検討が必要



箱罠に入る
ノウサギ



誘導路を
飛び越える
ノウサギ

まとめと今後の展望

【まとめ】

- ・行動特性として造林地への往来が基本だが、千葉県では天敵が少ないため、**造林地内に定着している可能性がある**
- ・誘引餌としては「コウヨウザン」が非常に有効
- ・**障害物に沿って移動する傾向が強い可能性**があり、移動経路の見極めと誘導が重要

【新たな捕獲手法の検討について】

- ・ノウサギ食害が続く限り小型箱罠による捕獲を継続するが、工夫の1つとして「移動遮断柵と小型箱罠の併用」(方法③の発展形)を検討し、造林地中央部分のノウサギを捕獲することで、捕獲効率の向上を図りたい
- ・継続性には乏しいが、胴くりりわなによる捕獲も上記と並行して実施している